

引應劭漢官儀云老者久也舊也按說文公平分也从八从厃猶背也韓非曰背厃爲公是卽公私字以爲老公字者轉注也

〔倭名類聚抄二〕古老遊仙窟云古老和名於岐

奈比止

今按云古老又一云老舊一云日本紀云老宿同上

〔箋注倭名類聚抄一〕原書云古老相傳此所引即是今本傍訓不流幾於幾奈比止

尾張國真福寺所藏

古本遊仙窟訓不流幾於幾奈比止按於幾奈比止見土佐日記按本書引遊仙窟訓或云師說或云讀而此云和名恐誤又按老舊字無所見疑耆舊之譌耆舊出後漢書魯恭傳其他尙多○中略按老宿字日本紀不載當是耆宿之誤重復者今不錄存

〔倭名類聚抄二〕耆宿布流於日本私記云

木奈

〔箋注倭名類聚抄一〕耆宿見顯宗元年紀今本傍訓不流幾於幾奈按耆宿出後漢書和熹鄧皇后

紀及樊儻傳說文耆老也

〔類聚名義抄二〕僕蘇后反ガキナサウ、傾同上

〔同二〕耆巨伊反ガキナ、眉俗

〔同目〕耆カイタル人

〔同十一〕老子ガキナヒト

故老同

舊老同

老公同

羽翁ガキナヒト

翁同訓ガキ

〔下學集上〕翁叟ガキナヒト、耆同上

〔東雅人倫〕人ヒト○中

老翁をばヲヂといひまたオキナといひ舊事紀日本紀等に見ゆ伯叔父

人老父等の字を並用ひらる

〔倭訓栞前編四十五〕おきな日本紀に翁又長老又老人老公をよみ欽明紀に老臣舒明紀に叔父をも義訓し童蒙頑韻に耆もよめり叟と同じ老名の義なるべし

〔圓珠庵雜記〕老翁を日本紀にをぢとよめりおきなに同じ

〔圓珠庵雜記〕翁のみも万葉によめり老いたる人を貴みて小父の意にていふならん